

「ください」と「下さい」を^{スーパーエイチティースリー}SuperHT³で 正しく使い分け

「および/及び」はどちらが正しい？

Choosing the appropriate form of “kudasai” with **SuperHT³**

有限会社 アトリエ・ワン

貝島良太

Ryota Kaijima

用語集超活用ソフト**SuperHT³**(スーパーエイチティースリー)はもともと技術用語の表現の統一を主目的として開発されたものであるが、このソフトの機能をよく理解し、用語集をうまく構築すれば用字用語の正しい表現の統一にも活用することができる。本ソフトの日本語用語チェック機能(日日)を利用して、「ください/下さい」「および/及び」「おく/置く」などのことばを文章中で正しく使い分けることが可能になる。

1. はじめに

二カ国語における用語と訳語の表現の統一、引かなくても良い辞書、飛び込んでくる用語集などを開発の主目的として作られた用語集超活用ソフト**SuperHT³**であるが、最近用字用語の統一にも利用され始めている。本ソフトの日本語の用語統一機能(日日)を利用して、「ください/下さい」「および/及び」「おく/置く」など、文章中で正しく使い分けにくいことばをチェックし、間違っている場合は正しいものに置き換えるのである。「かのにの原理」の左半分を利用することになる。

ここでは、「ください」を例にとって述べてみよう。「ください」という項目について、日経BP社発行の「文章・用語ハンドブック」では、『「下さい」は動詞の場合、「～ください」は補助動詞の場合に使う』(204ページ)とある。共同通信社発行の「記者ハンドブック第9版」では、『「ください・くださる(を)下さい・(を)下さる お手紙を下さい、しばらくの猶予を下さい」、「ください(して)ください(補助動詞の場合)ご検討ください、ご注意ください

ださい、ご了承ください』(202ページ)とある。「ください」が動詞、すなわち英語の give にあたる場合は「下さい」と漢字を使い、補助動詞、すなわち英語の please にあたる場合は「ください」とひらがなにするのが正しい表記であることが分かる。

2. 使い分けるための規則を見つける

SuperHT³は、構文解析や意味処理などのAIを使用した高級なソフトではない。それでも、「ください/下さい」の正しい使い分けができないものか、使い分けのための規則性を探ってみた。結論として、98点くらい取れる規則が見つかった。それは、「ください」または「下さい」の直前の文字が、「を」「が」「は」など体言の直後に来る助詞の場合は、「ください」の意味は動詞(give)となるので「下さい」と漢字にするのが正しく、直前の文字が「て」「で」「し」など動詞の連用形の活用部分の場合は、補助動詞(please)なので「ください」とひらがな表記にするのが正しい。直前の一文字(あるいは二文字)を見ることで、特段の意味処理をしなくても「ください」がgiveかpleaseかを区別できそうである。この

ように大雑把に当たりをつけた後、さらに、例外あるいは同じ文字に両方の意味があり、意味処理をしない限り判別がつかないものがないかなどを検討した。結果をまとめたものが表1である。

表1 下さい/くださいの使い分け規則

体言 の場合 [giveの意]	※サ変名詞以外の名詞 (鉛筆)		下	い-[10]
	目的物(もの:本)	を		
	目的者(ひと:ぼく)	に へ		
	主格(ひと:母)	から が の		
	主格(ひと:わたし)/ 目的物(もの:パン)	と も は より まで(迄)		
副詞 (早)		く		
用言 の場合 [pleaseの意]	(ご)サ変動詞の語幹 (了承)		くだ さ	ら-[34] り-[34] る-[34] れ-[34] ろ-[34] っ-[34]
	動詞の連用形(食べ、乗っ)	て		
	動詞の連用形(飲ん)	で		
	動詞の連用形(会)	い		
	動詞の連用形(教)	え		
	動詞の連用形(書)	き		
	動詞の連用形(嗅)	ぎ		
	動詞の連用形(助)	け		
	動詞の連用形(上)	げ		
	動詞の連用形(示)	し		
	動詞の連用形(命)	じ		
	動詞の連用形(聞か)	せ		
	動詞の連用形(撫)	ぜ		
	動詞の連用形(立)	ち		
	動詞の連用形(当)	※て		
	動詞の連用形(茹)	※で		
	動詞の連用形(死)	※に		
	動詞の連用形(尋)	ね		
	動詞の連用形(?)	(ひ)		
	動詞の連用形(並)	び		
動詞の連用形(?)	※(へ)			
動詞の連用形(並)	べ			
動詞の連用形(読)	み			
動詞の連用形(閉)	め			
動詞の連用形(取)	り			
動詞の連用形(離)	れ			
凡例	※のところは競合先でこの用法を異表記として、辞書化したところ。		灰色の部分はこの用法を標準表記として辞書化したところ。	

表の二重線より上部が、体言に助詞を介して付く動詞であるため「下さい」と漢字にすべきもの。二重線より下部が、用言の連用形の後に続く補助動詞であるため「ください」とひらがなにすべきものである。なお、中央の列のかっこ内に用例を示した。

まず、体言関係のほうから見てみよう。体言から助詞を介さずに直接「下さい」に続く場合がある。これは、口語ではよく使われるが、マニュアル文

などの正式な文章では、「鉛筆下さい」とは書かずに「鉛筆を下さい」と、助詞「を」をつけるのが正解であるから、「下さい」の直前が条件のないものは標準表記では辞書化しないことにした。この表で、

印をつけたところは、競合するものがあり、競合先のほうの使用頻度が高いと思われるためにの付いたほうではあえて辞書化しないことを意味している。辞書化しないというのは、その言葉を標準表記として Excel 辞書への登録(下記4項参照)をしないということである。しかし、まったくしないということではない。「ご」+サ変動詞の語幹に直接接続する場合の「ください」、例えば「ご了承ください」のようなものは正しい表現であるから、条件のないものは、「ください」を標準表記に、「下さい」はその異表記に登録することにした。動詞としての「ください」(すなわち give の意味)の場合は、目的を表す助詞「を」を伴った場合、例えば「本を下さい」のような場合がある。この他「に」「へ」「から」「が」「の」「と」「も」「は」「より」「まで」の助詞の直後の「ください」はその前に体言が来ている可能性が非常に高いのですべて「下さい」と漢字にして差し支えない。さらに、「早く下さい」のように、形容詞の連用活用語尾の「く」が付いた副詞的用法の場合も動詞の場合が多いので「下さい」とすることが適当である。言い換えると、「を、に、へ、から、が、の、と、も、は、より、まで、く」の直後の「ください」は「下さい」と書いたほうが正しいということである。

次に、用言が先行する場合を見てみよう。先述の「(ご)+サ変動詞の語幹」+「ください」をひらがなにする外に、動詞の連用活用語尾の「て」や「で」の直後の場合もひらがなの「ください」が適当である。また、例えば「お飲みください」のような丁寧な表現の「お+動詞の連用形」で五段活用の「い、き、ぎ、し、じ、ち...」の「い」列の語尾と、「え、け、げ、せ、ぜ...」の「え」列の語尾の直後の場合はひらがなが適当である。「お+動詞の連用形」の場合の「て」、「で」については、普通の動詞の連用形のところの「て」「で」と重複するので、印にした。

「お + 動詞の連用形」の場合の「に」については、用例がほとんどないので、体言 + 「に」 + 「下さい」の用法を標準表記とし、その場合の異表記をひらがなとすることにした。また、連用形の語尾が「ひ」「へ」になるものが現代仮名遣いでは見当たらないので辞書化しないことにした。

3 . 日本語品詞入力規則

次の表2はSuperHT³の日本語品詞入力規則コード表である。これは本ソフトのヘルプの一部(C:\¥SuperHT3¥help¥SuperHT3 日本語品詞規則.htm)である。

表2 SuperHT³日本語品詞規則

	品 詞	例	HT3 の日本 語品詞 コード	語尾変化部分
1	名詞	パソコン	10	na
2	固有名詞	日本	11	na
3	名詞&サ変動詞	到着-する	12	さ、し、しろ、する、すれ、せ、せよ (7)
4	名詞&ザ変動詞	御覧-ずる	13	じ、じろ、ずる、ずれ、ぜ、ぜよ (6)
5	名詞&形容動詞	平気-だ	14	だ、だっ、だろ、で、な、なら、に (7)
6	形容詞	楽しい	15	い、かっ、かろ、く、けれ (5)
7	形容動詞	不用意-だ	16	だ、だっ、だろ、で、な、なら、に (7)
8	上(下)一段動詞	調べ-る	21	た、て、な、まら、る、れ、ろ、よ (9)
9	ア(ワ)行五段動詞	会-う	22	い、う、え、お、っ、わ (6)
10	カ行五段活用	書-く	23	い、か、き、く、け、こ (6)
11	カ変動詞(来る)	来-る	24	い、た、て、な、ら、る、れ、よ (8)
12	カ行特別動詞(行く)	行-く	25	か、き、く、け、こ、っ (6)
13	ガ行五段活用	嫁-ぐ	26	い、が、ぎ、ぐ、げ、ご (6)
14	サ行五段活用	示-す	27	さ、し、す、せ、そ (5)
15	サ変動詞(～する)	入力-する	28	さ、し、しろ、する、すれ、せ、せよ (7)
16	ザ変動詞(～する)	存-ずる	29	じ、じろ、ずる、ずれ、ぜ、ぜよ (6)
17	タ行五段活用	立-つ	30	た、ち、っ、つ、て、と (6)
18	ナ行五段活用	死-ぬ	31	な、に、ぬ、ね、の、ん (6)
19	バ行五段活用	選-ぶ	32	ば、び、ぶ、べ、ぼ、ん (6)
20	マ行五段活用	頼-む	33	ま、み、む、め、も、ん (6)
21	ラ行五段活用	喋-る	34	ら、り、る、れ、ろ、っ、ん (7)
22	記号	。	35	na

SuperHT³では、用言の活用語尾に対応するために独自の品詞コードを設定してある。品詞コードを適切に付ければ、用言の語幹のみを辞書登録することで語尾変化に対応できるようにするためである。すなわち辞書作成が簡素化できるのである。

表の見方を説明しよう。本ソフトでは全部で 22 個の品詞を設定してある。コードは「10」から「35」までであるが、ところどころ欠番になっている。

1、2、22 項は体言であるので活用による語尾変化は無用であるが、それ以外は活用による用言の活用語尾変化があるものである。「例」の列には用例を記した。ハイフンの前は語幹(無変化部分)である。ハイフンの後ろは活用語尾(変化部分)である。用例には終止形を記入してある。たとえば、品詞コード 12 の場合は、サ変動詞であるから、語幹だけでも名詞としての意味を持つ。「到着」という文字列のみでも名詞として成立するし、「到着さ」せる、「到着し」ます、「到着しろ」、「到着する」とき、「到着すれ」ば、「到着せ」ねば、「到着せよ」、のように 7 つの活用がある。品詞コード「12」で登録した文字列は、すなわち語幹の文字列そのものの外、語幹に活用部分の「さ、し、しろ、する、すれ、せ、せよ」が付いた文字列としても辞書化されることになる。品詞コード 12、13、14 までは語幹だけでも名詞として成立するので、語幹は独立した文字列として登録されるが、品詞コード 15 以降 34 までの 16 品詞は語幹だけでは語として成立できず、活用語尾変化部分を伴って成立する語に適用するものである。例えば、下一段活用動詞の「調べる」という語は、「調べた」とき、「調べて」みる、「調べな」かった、「調べま」しょう、「調べら」れない、「調べる」こと、「調べれ」ば、「調べろ」と、「調べよ」う、のように 9 通りの活用が考えられる。「食べる」「比べる」もこの例に当てはまる。「調べ」は動詞の連用中止形と名詞として語幹だけで意味を持つので、その場合は、「調べ」で、「10」と「21」を登録することになる。

さて、「ください/下さい」であるが、活用語尾変化として、「ら、り、る、れ、ろ、っ、ん」が考えられるので、語幹を「くださ/下さ」とし、品詞コード 34 で登録すればよいことになる。ただし、それでは「ください/下さい」そのものが抜けるので、これらを、「10」で登録しておく。これが、表1の右端列の記載内容の意味である。

4. Excel 辞書への展開

表1の内容を形式の Excel 辞書に登録したものが次の表3である。実際の Excel 辞書は A から P までの 16 列あるが、ここでは英語訳に関する列など本件に直接係わり合いのない部分を省略した。「を下さい」と「を下さ」のように、表1のすべての種類につき品詞コード「10」と「34」の両方をペアで登録する。そして、異表記には標準表記と逆のもの(標準表記が漢字の場合は異表記にひらがな表記のもの、標準表記がひらがなのものには異表記に漢字表記のもの)を登録する。こうすることにより、いずれの文字列が検索対象の文書中にあっても一致(ヒット)し、標準表記としてヒットしたものは水色(標準表記なので「良い」ということ)、異表記としてヒットしたものはピンク(異表記なので標準表記に直したほうが良いということ)に区別されるようになる。

表3 「ください/下さい」の Excel 辞書

日本語読み	日本語標準表記	品詞	日本語異表記
クダサイ	を下さい	10	をください¥¥
クダサイ	を下さ	34	をください¥¥
クダサイ	に下さい	10	にください¥¥
クダサイ	に下さ	34	にください¥¥
クダサイ	へ下さい	10	へください¥¥
クダサイ	へ下さ	34	へください¥¥
クダサイ	から下さい	10	からください¥¥
クダサイ	から下さ	34	からください¥¥
クダサイ	が下さい	10	がください¥¥
クダサイ	が下さ	34	がください¥¥
クダサイ	の下さい	10	のください¥¥
クダサイ	の下さ	34	のください¥¥
クダサイ	と下さい	10	とください¥¥
クダサイ	と下さ	34	とください¥¥
クダサイ	も下さい	10	もください¥¥
クダサイ	も下さ	34	もください¥¥
クダサイ	は下さい	10	はください¥¥
クダサイ	は下さ	34	はください¥¥
クダサイ	より下さい	10	よりください¥¥
クダサイ	より下さ	34	よりください¥¥
クダサイ	まで下さい	10	までください¥¥迄下さい¥¥までください¥¥
クダサイ	まで下さ	34	までください¥¥迄下さい¥¥までください¥¥
クダサイ	く下さい	10	くください¥¥
クダサイ	く下さ	34	くください¥¥
クダサイ	ください	10	下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	下さい¥¥
クダサイ	てください	10	て下さい¥¥
クダサイ	てくださ	34	て下さい¥¥
クダサイ	でください	10	で下さい¥¥
クダサイ	でくださ	34	で下さい¥¥

クダサイ	ください	10	い下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	い下さい¥¥
クダサイ	ください	10	き下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	き下さい¥¥
クダサイ	ください	10	ぎ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	ぎ下さい¥¥
クダサイ	ください	10	け下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	け下さい¥¥
クダサイ	ください	10	げ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	げ下さい¥¥
クダサイ	ください	10	し下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	し下さい¥¥
クダサイ	ください	10	じ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	じ下さい¥¥
クダサイ	ください	10	せ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	せ下さい¥¥
クダサイ	ください	10	ぜ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	ぜ下さい¥¥
クダサイ	ください	10	ち下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	ち下さい¥¥
クダサイ	ください	10	ね下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	ね下さい¥¥
クダサイ	ください	10	び下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	び下さい¥¥
クダサイ	ください	10	べ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	べ下さい¥¥
クダサイ	ください	10	み下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	み下さい¥¥
クダサイ	ください	10	め下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	め下さい¥¥
クダサイ	ください	10	り下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	り下さい¥¥
クダサイ	ください	10	れ下さい¥¥
クダサイ	くださ	34	れ下さい¥¥

SuperHT³では、このようにして作成したExcel辞書から、DB辞書(= HT3 辞書、拡張子: .ht3)に変換したものを辞書として使用するのである。

5. 検索結果と修正

それでは、表3のHT3 辞書を使い、どのように検索、修正ができるのかを見てみよう。実際の SuperHT³の画面ではヒット文字列は色と下線または蛍光ペン(MSWordの機能)による色分け(「表あり」モード)で表示されるが、ここでは色の代わりに下線の種類を変えて表示することとする。

使用した下線は、一本下線(= 水色、標準表記と一致したので正しい表現)、波線(= ピンク、異表記と一致したので候補語(標準表記)に変えたほうが良い表現)および二重線(= 青、用語統一で標準表記に置換後の文字列)の3種類である。

【原文】

①ぼくにパンをください。

- ②ぼくにパンを下さい。
- ③先生が私たちに下さった教え。
- ④先生が私たちにくださった教え。
- ⑤この事件について調べて下さい。
- ⑥この事件について調べてください。
- ⑦この本をお読み下さった感想をお聞かせください。

【用語確認後】

- ①ぼくにパンをください。
 - ②ぼくにパンを下さい。
 - ③先生が私たちに下さった教え。
 - ④先生が私たちにくださった教え。
 - ⑤この事件について調べて下さい。
 - ⑥この事件について調べてください。
 - ⑦この本をお読み下さった感想をお聞かせください。
- ヒットが「ください/下さい」の直前の助詞や活用形語尾から始まり、「くださ/下さ」の次の文字まで続いていることが分かる。これは、そのように Excel 辞書に登録したからである。

【用語統一後】

- ①ぼくにパンを下さい。
- ②ぼくにパンを下さい。
- ③先生が私たちに下さった教え。
- ④先生が私たちに下さった教え。
- ⑤この事件について調べてください。
- ⑥この事件について調べてください。
- ⑦この本をお読みくださった感想をお聞かせください。

【再用語確認後】

- ①ぼくにパンを下さい。
 - ②ぼくにパンを下さい。
 - ③先生が私たちに下さった教え。
 - ④先生が私たちに下さった教え。
 - ⑤この事件について調べてください。
 - ⑥この事件について調べてください。
 - ⑦この本をお読みくださった感想をお聞かせください。
- うまく辞書を構築すれば**SuperHT³**を使用して相当な成果を得ることが可能であることが分かる。とくに、うれしいのは用語確認を再度すると修正して標準表記になった部分が水色(一本下線)になることである。検収が実に明快である。

6 . 終わりに

このように、ひらがなと漢字の使い分けが直前直後の助詞や用言の活用語尾などの文字で判断できる場合は、辞書化のための規則性を見つけさえれば、98点以上の成果を上げられるはずである。しかし、「もの/物/者」「とき/時」「こと/事」のように意味を考えないと正しい使い分けが出来ないものは、この方法では無理である。その場合は、「もの/物/者」「とき/時」「こと/事」などを両方とも異表記に登録しておき、どちらにするかをそのたびにユーザーに判断してもらう方法が良い。その場合、「物理」「若者」「時間」「事件」などの熟語にもヒットしてしまうので検索結果が見づらくなってしまふ。これを避けるために、これらの熟語は別途辞書化しておくことがより実践的であろう。

また、法律関連の文章などでは、本来ひらがなにすべき接続詞の「および」を漢字で「及び」とする習慣がある。このような場合は、接続詞の「及び」として漢字で標準表記に登録した辞書を使う必要がある。つまり、準拠する規則が、目的によりまちまちであるから、目的ごとに異なる辞書を作って対処しなくてはならない。

別のグループであっても、まったく新しく作るよりも、先駆者の作ったものを部分修正して使用することにより辞書作りの省力が可能になる。

* * *

【参考文献】

貝島良太 2002 用語集超活用ソフト **SuperHT³** で実現する用語/訳語の統一 せっかく作ったその用語集、どうやって使いますか? TCシンポジウム'02 論文集、30-34 ページ

用語集超活用ソフト **SuperHT³** の問合せ先:

有限会社アトリエ・ワン (Atelier Bow-Wow) SuperHT³ 事業室 貝島良太 e-mail : roy_kajima@h8.dion.ne.jp URL : http://www.bow-wow.jp/sht3/ Tel/Fax : 03-3351-0058
--